

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 個別最適な学びによる基礎的・基本的な知識・技能を定着させる指導の実践
- 協働的な学びを取り入れた児童の思考力・判断力・表現力を育む授業改善
- 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る指導の工夫

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
		教頭
		教務主任
		研修主任
		特別支援コーディネーター

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や各教員による自己評価を毎月行い、学期末に報告することで、取組状況を把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能が身についてきている。 ●長文に対し苦手意識のある児童が多く、長文を最後まで読み取ったり、書かれている内容を理解したりすることに課題がある。	・基礎的・基本的な漢字の読み書きや四則計算などが確実にできる。 ・長文を正確に読み、その内容を捉えることができる。	・朝の国算タイムに全学年でドリル学習に取り組む。 ・学力向上CDや読解のプリントを活用したり、並行読書を行ったりする回数を増やす。 ・漢字や計算のミニテストを行う。 ・家庭学習でも繰り返し課題を与える。 ・働き方改革支援講師が基礎的基本的な学習を重点的に指導する。	・ドリル学習で基礎・基本の知識技能が身についてきている。 ・これからも活用して、回数をできるだけ増やす。 ・定期的にミニテストを行い、結果を元に家庭学習などを活用し、繰り返し課題に取り組む機会を与えている。 ・働き方改革支援講師が、支援が必要な児童を重点的に支援している。	・ドリル学習で基礎・基本の知識技能が身についた。 ・定期的にミニテストを行い、繰り返し課題に取り組むことができた。 ・働き方改革支援講師が、支援が必要な児童を重点的に支援することで、学習の積み重ねができた。	・長文に対するの苦手意識を改善するために、並行読書などの取組を積極的に行う。 ・学力向上CDを活用し、読み書きの活動の機会を多く取り入れる。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○自分で考えたことを自分なりの言葉を使い、相手に伝えようとしている児童が多い。 ●自分の思いや考えを、筋道立てて表現することが苦手な児童が多い。	・自分の思いや考えを、理由や根拠を明確にして、筋道を立てて表現することができる。	・比較したり言い換えたりするような深い学びに繋がる発問を工夫したり、発表の仕方や話し方のマニュアルを提示したりする。 ・自由に自分の言葉で話せるように、主体的に対話できる学習形態(グループ学習やペア学習など)の機会を設ける。 ・ホワイトボードや協働学習支援アプリ等を用いて他者の意見を取り入れる場面の設定をする。 ・学校評価アンケートの「自分の考えや思ったことなどを発表している」と答える児童の割合が90%以上になるように目指す。	・自分の意見がしっかりとつとることができるように、充分に考える時間をとったり、ワークシートの内容を工夫したりする。 ・ヒントカードを提示して、表現したい言葉を自分から選ぶことができるようにする。 ・学活等で児童が自己解決に努めることができる時間を設定する。	・手がかりになるようなツールを工夫することで、自分の考えたことを表現できるようになってきている。 ・学級会で自分たちのこととして意見を出し合い、よりよい方向について考えることができた。	・自分の言葉で伝える経験を学校生活の中で設けていく。 ・学習において、自分の言った意見に根拠をもって説明する場面が増えていくように、学校全体で授業改善に取り組む。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○宿題などの与えられた課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。 ○指示された学習や手順の分かる学習には根気よく取り組むことができる。 ●応用問題や発展問題などに主体的に取り組むことに課題がある。 ●家庭で読書をしたり、学年×10分以上の家庭学習の時間を確保していたりする割合が低い。	・各教科の応用・発展問題に主体的に取り組むことができる。 ・家庭学習の状況を振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・教科書に関連した本を読み、学習を深めることができる。	・積極的にICT機器を活用し、児童たちが主体的に学習に取り組む意欲を高める。 ・学習のめあてや単元のゴールを明確にすることで、児童に見通しをもって学習させる。 ・家庭学習チェックカードのコメント欄を利用し、児童や保護者に家庭学習の意欲づけをするとともに、その結果を学級だよりなどで発信し、啓発を行う。 ・教科書に関連した書物を教室に置き、読書タイムなどの時間に並行読書を奨励する。	・教科書に関連した書物を児童が紹介したり、感想を述べたりする機会を設ける。 ・授業のすきま時間にもICT機器を活用する。	・児童の状況により応用・発展問題ではなく基礎・基本に取り組むことが多かった。 ・家庭学習チェックカードを利用して、自らの課題を作って学習に取り組むことができた。 ・並行読書をし、学習を深めることができた。	・タブレットなどを活用し、応用・発展問題に主体的に取り組ませる。 ・週1回程度、クラスで図書室に行く時間を作るなど読書の機会を設ける。 ・日記で新聞の感想・俳句を書くなど楽しんで取り組めるように工夫する。 ・発展・応用問題ができるアプリを取り入れたい。

令和7年度 学力向上ロードマップ

